

研究全体図

研究主題「考えを深める児童の育成」一言葉の力を基盤として

児童の実態

- ◎体験することを好む子ども
- ◎体験と言葉とを結び付けてイメージ豊かに理解することが苦手な子ども
- ◎考える力・読み取る力を身に付け自分の考えを表現することが苦手な子ども

目指す児童像に迫るための手立て

目指す児童像

- ◎自らの体験を知識や認識に結び付けられる子ども
- ◎語彙を豊かにして言葉の意味や言葉のもつイメージ・情感を理解できる子ども
- ◎資料を読み取る力や、理由・根拠を示して自分の考えを自分の言葉で表現できる子ども

研究の視点

図書資料などを活用し、自らの課題を追究させ、新たな見方や考え方をもたせる。

B分科会 ー図書館活用・調べ学習ー

分科会の育てたい児童像

「体験・資料・見学・調査活動から生まれた疑問や課題を大切にし、図書館などを活用して新たな考え方を育てられる子ども」

具体的な手立て

- 1 学習問題や追究課題を見つけさせるために体験をさせたり資料と出会わせたりする。
- 2 疑問や知りたいことをカードに書きため、課題の熟成を図る。
- 3 広い視点から学習問題や追究課題をはっきりさせる。
- 4 学校図書館を活用し、適切な資料を選ばせる。
- 5 調べた事柄を工夫してまとめさせる。
- 6 交流し合うことで考えを深めさせる。
- 7 形成的評価をしながら児童の実現状況を的確にとらえ、適切な指導・支援を行う。

<教師からの評価 / 自己評価/ 相互評価>

C分科会 ー書くことによる思考ー

分科会の育てたい児童像

「体験・資料や調べたことから、自分の考えを論理的に書くことができる子ども」

具体的な手立て

- 1 書きたいと思える体験の場を意図的に設定する。
- 2 書く機会を設け、書く習慣を身に付けさせる。  
→自己内対話の時間を確保する。
- 3 発達段階に応じて、気持ちや考えが伝わるように工夫して書かせる。
- 4 話し合いによる考えの交流を促す。
- 5 考えて書いたことを発表する場を設定する。
- 6 形成的評価をしながら、児童の実現状況を的確にとらえ、適切な指導・支援を行う。

<教師からの評価 / 自己評価/ 相互評価>

研究の視点

「書く」ことを重点にし、これまでの自分の見方や考え方を振り返り、新しい見方を探究・発見し、自分の見方や考え方を広げさせる。

(本校で目指す学習)

- 豊かな「体験」を基に
- A 日常的な活動を生かし
- B 調べ
- C 書いて

考える学習

A分科会 ー日常的な活動ー

分科会の育てたい児童像

「相手や場面に合わせ、自分の思いや考えを伝えられる子ども」

具体的な手立て

- 1 言語活動を豊かにする。(語彙を増やし、言葉で伝えることのよさを味わわせる、分かってもらえた楽しさを味わわせる)
- 2 直接体験・共通体験の場を多く設定する。
- 3 体験したことについて、相手に分かり易く伝えるために、書く・話す・聞く活動を大切にする。
- 4 自分の考えを、根拠を明らかにしながら表現する活動を行う。
- 5 形成的評価をしながら、児童の実現状況を的確にとらえ、適切な指導・支援を行う。

<教師からの評価 / 自己評価/ 相互評価>

研究の視点

「言語活動」を豊かにし、体験や言語に関する日常的な積み重ねの指導を大切にして、言葉の力を身に付けさせる。